## Ⅳ　愛知県図書館の歩み

| | |
|---|---|
| 昭和 27（1952）年 4 月 | 講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置 |
| 昭和 34（1959）年 4 月 | 愛知県文化会館愛知図書館開館 |
| 平成 3（1991）年 3 月 | 愛知県文化会館愛知図書館閉館 |
| 4 月 | 愛知芸術文化センター愛知県図書館開館 |
| 平成 6（1994）年 4 月 | 宅配便による市町村立図書館との間の資料搬送を開始 |
| 平成 12（2000）年 3 月 | 移動図書館（ブックモビル）の廃止と貸出文庫の開始（4 月） |
| 平成 13（2001）年 3 月 | インターネット蔵書検索の公開 |
| 平成 14（2002）年 4 月 | ＡＶ（視聴覚）資料の貸出開始、図書貸出を 3 冊 15 日から 6 冊 22 日に拡大 |
| 平成 15（2003）年 1 月 | 県内公共図書館横断検索システム「愛蔵くん」の公開 |
| 平成 17（2005）年 3 月 | 貸出返却業務の 1 階カウンターへの集中化とレファレンス体制の強化、ビジネス情報コーナー、ティーンズコーナーの設置 |
| 平成 18（2006）年 3 月 | 多文化サービスコーナーの設置 |
| 平成 19（2007）年 3 月 | インターネットによる貸出中図書予約、利用状況照会の開始 |
| 平成 22（2010）年 1 月 | 貸出中ＡＶ資料の予約受付開始（本格開始 4 月） |
| 8 月 | 著作権法第 37 条第 3 項の視覚障害者等のための複製又は自動公衆送信が認められる者として文化庁長官より指定 |
| 平成 23（2011）年 9 月 | 遠隔地返却制度試行開始(本実施 24 年 4 月) |
| 平成 24（2012）年 3 月 | ＡＶ資料の貸出期間を 15 日から 22 日に延長 |
| 平成 25（2013）年 1 月 | 録音資料の協力貸出開始とＡＶ室での館内視聴の終了（2 月） |

## Ⅴ　平成 24 年度の主要な事業動向

### 1　市町村立図書館等を介したサービスの状況

#### (1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

これまで協力貸出の対象としてこなかった視聴覚資料について、ＣＤなどの録音資料の貸出を行うこととし、25 年 1 月 11 日から試行を開始した。開始から 3 月末までに 216 点を貸し出した。開始時点での県内市町村立の参加は約 7 割であった。参加館アンケートで要望の多かった梱包方法等を見直したうえで 25 年度中に本実施の予定である。

24 年度のサービス計画では、前年度に続き、特に重点をおいて取り組むサービスの一つとして、「市町村立図書館や近隣県立図書館などとの連携による県域の資料提供能力の充実」を掲げ、その目標値を「協力貸出冊数＋市町村立図書館等で返却された遠隔地資料数 20,400 冊」とした。

24 年度の県内図書館への貸出冊数は図書 17,400 冊、録音資料 216 点、市町村立図書館等で返却された遠隔地資料数は 2,498 冊・点で合計 20,114 冊・点となり、わずかながら目標に届かなかった。

#### (2) 遠隔地返却制度

23 年度から試行していた遠隔地返却制度の本実施を 4 月から開始した。対象自治体は、東三河地区（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）、西三河地区（岡崎市、碧南市、西尾市、高浜市、幸田町）、知多地区（半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町）で、1 年間で 2,498 冊・点の利用があった。

#### (3) 市町村立図書館への支援

図書館の設置や新館の建設を検討する市町村に対し、情報の提供や職員の参画を含めた支援を行っている。県内唯一の未設置市であった清須市で 7 月に図書館が開館したほか、一宮市立豊島図書館は、25 年 1 月に一宮市立中央図書館として新築移転した。図書館設置に向けた他館事例の情報提供やアドバイス等を行った。

「あいちラストワン・プロジェクト」は、資料を県内図書館等で協同して保存していくための事業であ

る。県内図書館１館のみが所蔵する資料を希少資料と定義し、資料が将来にわたって確実に利用できるよう、取り組むことになった。愛知県図書館は「希少資料保存要綱」を策定するとともに、試行への参加館募集等の準備を行った。

市町村立図書館支援の一環として県内各団体主催の研修会へ職員を講師として派遣した。24 年度は県内で実施された研修会等へ 19 名を講師として派遣したほか、市町村立図書館との情報交換のため延べ 43 人の職員を派遣した。

### (4) 大学図書館、高校図書館等との連携

名古屋大学、名古屋市立大学、南山大学の図書館と愛知県図書館の間で、18 年 5 月から開始した定期搬送便の実証実験は大学図書館側の物流体制についての検証を実験の目的として 24 年度も継続した。この搬送便を利用した公立図書館から大学図書館への貸出は 641 冊(前年度比 103%)、借受は 322 冊(同 112%)となり、前年を上回った。また、東海地区図書館協議会の「資料相互利用協定」参加の大学図書館に 360 件の資料を貸し出した。また 46 件の資料を借り受け、3 件の複写依頼を受けた。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを引き続き実施した。うち高等学校への協力貸出冊数は 2 校 57 冊であった。

## 2 来館者サービスの状況

### (1) 入館者、貸出、レファレンスサービス等の状況

ここ 4 年連続で入館者数が減少している。24 年度の開館日は 282 日で、1 日多かった前年度より入館者は 653,438 人と 2.2%減少した。1 日平均では 2,317 人となる。資料の個人貸出点数(図書、ＡＶ資料)も、537,355 冊・点で前年度より 1.4%の減少となった。特にＡＶ資料は前年度から 5,028 点（前年度 6%）減少した。これは 24 年 3 月から、ＡＶ資料の貸出期間を 15 日から図書と同じ 22 日間に変更して利便性の向上を図った結果、資料の回転率が落ち、貸出点数の減少という形で表れたと考えられる。

レファレンスの内容では、原発事故からの復興途上であることから、前年度に引き続き、放射能汚染、原発の施設などについての問い合わせが多かった。また、自分で調べようとする方を支援するために作成している「調べ方ガイド」は 3 点を追加して総数 19 点となり、総配布枚数は 8,784 枚だった。貸出中資料の予約は、オンライン予約を開始して以来、大幅な増加を続けていたが、6 年目を迎えて伸び率に落ち着きが見られるようになり、カウンターでの予約件数を含めて 30,160 件と前年度並みとなった。

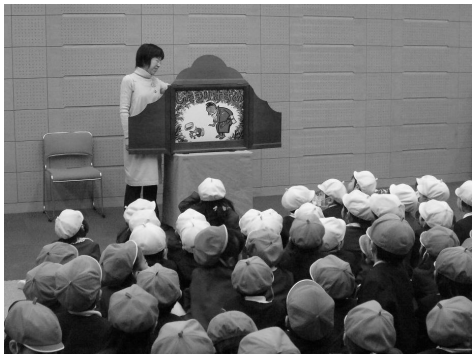
### (2) ＡＶ室館内視聴サービスの終了

ＡＶ室においては、視聴ブースや映像・音声送り出し機器の老朽化、またレーザーディスクプレーヤー・ＶＨＳビデオデッキの生産中止に伴い、ＡＶ室での館内視聴サービスを 25 年 2 月 27 日をもって終了した。なお、当地域に関するＶＨＳビデオについては保存・利用方法が懸案であったが、ＤＶＤに媒体変換し、25 年 3 月から 3 階人文・地域資料部門のカウンターのパソコンで視聴していただく運用を開始した。

### (3) 児童に対するサービス

「魔法」「スポーツ」「言葉あそび」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。発行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』（月刊）、おすすめ本を紹介する『じどうしつだよりえほん』『児童室だより　ものがたり・ちしきの本』（季刊）のほか、対象別おすすめ本リスト『知識の本 幼児向け』を発行した。

おはなし会は、午前を幼児向け、午後を小学生向けとして、年間 23 日 46 回行った。ほかには、8 月 7 日と 8 日に夏のおたのしみ会、12 月 27 日に冬のおたのしみ会を行った。おたのしみ会の内容は読み聞かせ、パネルシアター、折り紙工作などであるが、夏のおたのしみ会の小学生向けでは実験や工作を行った。また、夏休みには、自由研究や読書感想文に役立つおすすめ本を小学校低学年・中学年・高学年に区分して別置した。児童図書の貸出冊数は前年度比 96%の 87,918 冊であった。



（社会見学で来館した幼稚園児たち）

### (4) 障害者に対するサービス

著作権法改正の趣旨を踏まえ、視覚障害者資料室を利用できる者を「視覚障害者」から「視覚による表現の認識に障害のある者」へと拡大し、規程類を整備した（24年3月9日施行）が、これにより新たに対象となった方の登録は24年度は1件であった。

24年度に作成した録音資料のタイトル数は、カセットテープが1、ＤＡＩＳＹ（デイジー）が既蔵テープからの変換57を含め86であった。

視覚障害者への対面朗読は、利用者数が延べ272人（前年度比89%）、対応した朗読者数が延べ206人（同95%）、朗読時間数が358時間（同86%）であった。

当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」には、点字・録音図書の相互貸借のための書誌データベースのほか一種の電子図書館の機能もあり、ダウンロードした音声データを自館でＣＤに複製することが可能である。24年度に会員種別をダウンロード可能な区分へとランクアップし、利用者のリクエストにより迅速に応えられるようになった。視覚障害者資料の貸出数は、自館資料が932タイトル（前年度比88%）と減少したものの、他館資料を提供した数はダウンロード274タイトルを含め4,514タイトル（同129%）と引き続き大きく伸びている。心身障害者への郵送貸出の数は、907点（同86%）であった。

### (5) 各コーナーの状況

ア 地域資料コーナー

地域資料コーナーは、愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料の幅広い収集を目指し、24年度末現在、図書70,301冊、雑誌1,273タイトルを所蔵している。

イ ティーンズコーナー

ティーンズコーナーは平成17年3月から運用を開始し、蔵書は約6,700冊となった。

ヤングアダルト向けの図書の充実とともに、「てこぽん」（おすすめの本のＰＯＰと図書館グッズを交換できる利用者参加型企画）の実施や、企画展示の開催、愛知県内の高校･大学が発行した学校案内のコーナーを設置するなどのサービスを行っている。また、「てこぽん」特別企画として、平成24年度に提出されたＰＯＰの中からベストＰＯＰを利用者投票で選ぶ「てこぽん大賞」を開催することとし、より一層の参加を呼びかけた。

ウ ビジネス情報コーナー

24年度は、前年度末からの「新社会人に贈る100冊」をはじめ、「ビジネス法務の本」「職業・資格の本」「クラウドをビジネスに活用する」「株主総会を知る」「手帳の上手な使い方」の各テーマで所蔵資料を紹介するミニ展示を行った。このうち「職業・資格の本」は展示場所での反応も良好で貸出利用も多かったため、展示期間を1か月延長した。また、企画展示「あいちの起業家応援フェア」を例年のように日本政策金融公庫 国民生活事業との共催により1階ロビーで開催した。ここでは起業関連資料として、多数の社史資料、創業者の評伝、創業者自著等を置いたが、展示の全期間を通じて利用者の関心は高かった。

## 3 インターネットを利用したサービスの状況

### (1) アクセス状況

インターネットによる貸出中資料への予約の利用は､前年度比4%増加し､予約全体の6割以上を占めた。

ホームページのトップページへのアクセス 564,965 回(前年度比 100%)、蔵書検索ページのアクセス数259,867回(同106％)、横断検索「愛蔵くん」へのアクセス335,731回(同93%)、携帯サイトの総ページビューは130,498ページ(同81%)となった。一時期大きく伸びていた携帯サイトの利用は、スマートフォンやタブレット端末などのモバイル情報機器の普及に伴って減少している。

横断検索「愛蔵くん」は、15年1月の公開以来市町村立図書館に参加を呼びかけてきたが、24年7月に開館した清須市立図書館と公民館図書室として初めて豊山町社会教育センター図書室が新たに加わり、県図書館と市町村立図書館を設置する48市町村と1公民館図書室及び3専門図書館が対象となっている。

### (2) 地域資料のデジタル化の充実

当館が所蔵する貴重な地域資料の電子画像は、現在「絵図の世界」「絵はがきコレクション」「貴重和本

デジタルライブラリー」の３コレクションとして、ホームページから見ることができる。23 年度に 53 タイトルを公開した「貴重和本デジタルライブラリー」への昨年度のアクセス回数は 5,200 回ほどであった。資料がより身近になってそこから多様な利用へ繋がることを期待している。

貴重な和本で紹介したいものはまだ数多くあり、館内では和本整備に意欲のある職員による「貴重和本整備チーム」を立ち上げて、24 年度以降継続して整備作業を進めている。25 年度は、緊急雇用創出事業基金事業を活用してデジタル化し、整備の済んだデータとともに順次公開していく予定である。

また、当館が所蔵する尾張、三河の国絵図、名古屋城下絵図、村絵図等の絵図のデジタルデータを、「絵図の世界」としてインターネットで公開しているが、細部まで見ることができる高精細画像 Gigaview（ギガビュー）を閲覧できないＯＳが多くなったことから、23 年度に Zoomify（ズーミフィー）データに変換を行い、24 年 6 月 21 日から公開した。従来の Gigaview も当面提供を続けることとしている。アクセス回数は、両方あわせて 11,100 回であった。

## ４　資料の収集

### (1) 図書の収集状況

24 年度は、合計 22,520 冊の図書を受け入れた。その内訳は、購入による受入が和書 18,440 冊、洋書 120 冊、計 18,560 冊。寄贈による受入が和書 3,813 冊、洋書 30 冊、計 3,843 冊。貸出文庫用図書及び県議会からの管理区分の変更などによる受入が 117 冊であった。購入による受入は 18 年度から 21 年度にかけて 21,000 冊程度であったものが、22,23 年度は資料費の削減により 19,000 冊ほどに減少し、24 年度は 18,560 冊と更に減少した。資料費削減が続く中で限られた予算を有効に活用するため、仕事や生活など県民が必要とする資料や市町村立図書館をバックアップできる資料の充実に努めた。

### (2) 新聞雑誌の状況

購入雑誌については技術系雑誌や専門誌の継続維持に努めた。寄贈については『地域政策学ジャーナル』（愛知大学）など 34 誌の県内大学紀要類や専門誌を新規に受け入れた。予算的に厳しい状況が続いているが、資料の充実を図っていくため寄贈受入を積極的に進めている。

### (3) ＡＶ資料の収集状況

24 年度は映像資料 561 点と録音資料 340 点を受け入れた。内訳は、ＤＶＤ558 点、ビデオテープ 3 点、ＣＤ340 点であり、購入・寄贈・自館作成の別では、購入 520 点、寄贈 153 点、自館作成 228 点である。自館作成 228 点は、地域資料として永く保存したいＶＨＳビデオをＤＶＤに変換し受け入れたものである。録音資料は幅広い分野からできるだけ万遍なく収集するようにした。映像資料では、前年度に引き続き、レーザーディスク及びテープ劣化の進むビデオカセットの代替ＤＶＤの購入を進めた。

なお、館内視聴サービス終了に伴い、館外貸出不可のレーザーディスク及びＶＨＳビデオを除籍した。このうちレーザーディスクの一部は愛知芸術文化センターのアートライブラリーへ管理換えし、また県内市立図書館 4 館と公立大学法人の 2 大学へ譲渡した。

## ５　図書館サポーター

### (1) おはなし会

24 年度におはなし会サポーターとして登録された方は 16 名で、毎月第 1 日曜日と第 3 土曜日に読み聞かせや紙芝居などを行っていただいた。そのうち 3 回は、絵本を使わず語り聞かせるストーリーテリングの「耳で楽しむおはなし会」であった。

### (2) 資料補修

破損・汚損した図書の補修を行う資料補修サポーターには、引き続き 1 名の方に登録していただいた。補修作業に習熟されていることから、補修作業全般にあたっていただいている。

## ６ 施設管理業務を対象に指定管理者制度の導入

23 年 12 月に公表された「行革大綱に係る重点改革プログラム」により、これまで個別に民間委託していた施設管理業務（清掃、施設運転管理等）を対象に、25 年度から指定管理者制度を導入することが方向

付けられた。24 年度は導入手続として、県民生活部文化芸術課により、6 月議会で芸術文化センター条例を改正、8 月に公募を開始し、10～11 月に部内の審査会及び県の選定委員会での審査により指定管理者として愛知県ビルメンテナンス協同組合を選定、12 月議会で議決され、25 年 3 月に協定書の締結を行った。

これにより、25 年 4 月から施設管理業務を、愛知県ビルメンテナンス協同組合が行っている。

なお、司書職員が行う図書館運営の基幹業務については、直営方式を継続している。

## 7　県内図書館の動向

7 月に図書館未設置であった清須市で新たに図書館が開館した。この結果、25 年 4 月 1 日現在の愛知県内の市町村は 54、図書館設置市町村は 48（38 市 9 町 1 村）、未設置市町村は 6（5 町 1 村）、図書館設置率は 89%となった。Ａｉｃｈｉ．ＬＬネットは、大治町立公民館図書室が新たに加わった。

清須市立図書館は、7 月に指定管理者制度を導入して開館した。25 年 4 月から名古屋市志段味図書館、東郷町立図書館が指定管理者制度を新たに導入した。新城図書館は、先に指定管理者制度を導入していたが、25 年 4 月から直接の運営に戻すことになった。25 年 4 月 1 日現在、県内で指定管理者制度を導入している図書館は、12 館である。

## 8　県内図書館団体等の動向

### (1)　愛知県公立図書館長協議会

ア ヤングアダルトサービス連絡会

24 年度総会を 7 月 5 日に碧南市で開催した。総会では碧南市民図書館のＹＡサービスの事例報告とＹＡコーナー見学に続いて参加者による情報交換が行われた。

11 月 29 日・30 日に広島市で開催された平成 24 年度全国公共図書館児童・青少年部門研究集会で、当連絡会の活動内容について事例発表を行った。

イ 図書館ネットワーク研究会

24 年度は、「共通イベントについて」「愛知県内の公立図書館のネットワークをＰＲする情報サイト（ホームページ）の作成」についての検討を行った。

ウ 研修会

第 1 回 「本をどう選ぶか」講師：山本昭和氏

第 2 回 「乳・幼児への図書館サービス～今、なぜ０歳から絵本なのか～」講師：渡辺順子氏〔愛知図書館協会との共催〕

第 3 回 「利用者目線の公立図書館職員として必須不可欠の著作権センス：ポジショントークを超えて」講師：山本順一氏〔日本図書館協会地方講習会との共催〕

第 4 回 「図書館での災害と安全性を考える」講師：中井孝幸氏

### (2) 愛知図書館協会

ア 図書館振興

「北欧の図書館 －スウェーデンの児童サービスを中心に－」講師：吉田右子氏

一般向けの図書館活動に関する講演会を開催した。参加者は 148 名で、図書館に関心のある学生、図書館ボランティア、学校図書館関係者など、10 代から 70 代まで幅広い方々が参加された。

イ 研修会

愛知図書館協会が実施する研修は連続受講形式で、講義と演習の組み合わせを原則としている。24 年度に実施した研修は次のとおりである。

・児童サービス研修：全 4 回の連続受講形式。うち「乳・幼児への図書館サービス～今、なぜ０歳から絵本なのか～」（講師：渡辺順子氏）を公開講座とした。

・レファレンスサービス研修：全 4 回の連続受講形式。うち、「レファレンス協同データベース～概要と活用法」（講師：牧野めぐみ氏）を公開講座とした。

・資料保存研修：資料保存について実習と講義を組み合わせた研修。

・ＩＴ研修：愛知淑徳大学の協力を得て、講義と実習を組み合わせた 2 日間の研修。